

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「いのちを見つめる8月」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「神の憐れみ深いみ心によって、あけぼのの光がわたしたちに臨み、暗闇と死の陰にいる人を照らし、わたしたちの足を平和の道に導く」（日本聖公会祈祷書「ザカリアの賛歌」より）

私たちは敗戦後72年目の夏を迎えました。今年の日韓聖公会青年セミナーは8月6日をはさんで広島で行なわれます。その日程の中で、広島県竹原市の瀬戸内海にある大久野（おおくの）島でフィールドワークが行なわれます。この島は最近「うさぎ島」として多くの観光客が訪れる島ですが、大日本帝国陸軍の毒ガス製造工場があった島で、「毒ガス島」とも呼ばれています。かつてのセミナーでは、「岡まさはる記念長崎平和資料館」で戦争加害の歴史を学んだこともありました。また、時の首相の靖国神社公式参拝の賛否について、日韓青年の意識の違いを認識したこともありました。

1995年に建てられた上記の資料館設立趣旨には、「戦争や原爆の悲惨さはいつまでも深く胸に刻み、これを風化させてはなりません。しかし、悲惨な結果を招いた原因が、残虐の限りをつくした日本のアジア侵略にあったこともしっかりと心に刻む必要があります。受けた苦しみの深さを知ることが、与えた苦しみの深さも知ることにつながらなければ、平和を築くことはできません。日本の侵略と戦争の犠牲となった外国の人々は、戦後50年たっても何ら償われることなく見捨てられてきました。加害の歴史は隠されてきたからです。加害者が被害者にお詫びも償いもしないという無責任な態度ほど国際的な信頼を裏切る行為はありません。核兵器の使用が正当化されれば再び使用される恐れがあるのと同様に、無責任な態度が許されるのならば、再び戦争が引き起こされる恐れがあります。」と記されています。

シリアでの空爆でいのちを奪われた子どもたちのことを思いながら、スマホの戦争ゲームに夢中になる大人たちの責任が問

## □会議・プログラム等予定

(7月25日以降)

7月

- 25日(火) 礼拝委員会〔管区事務所〕
- 27日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 29日(土) 正義と平和・ジェンダープロジェクト〔大阪〕
- 29日(土) 史談会
- 31日(月) ～8月1日(水) 祈祷書改正委員会〔ナザレ〕

8月

- 3日(水) ～7日(月) 日韓聖公会青年セミナー〔広島・呉〕

9月

- 5日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト〔沖縄〕
- 8日(金) 青年委員会〔管区事務所〕
- 12日(火) 主事会議〔管区事務所〕
- 13日(水) 聖公会・カトリック合同会議〔管区事務所〕
- 14日(木) 女性の聖職に関わる特別委員会〔管区事務所〕
- 14日(木) 聖公会・ルーテル教会協議会〔管区事務所〕
- 15日(金) 正義と平和・原発問題プロジェクト〔管区事務所〕
- 20日(水) 年金委員会〔管区事務所〕
- 22日(金) 臨時主教会〔神戸〕
- 23日(土) 神戸教区主教接手・就任式〔神戸〕
- 28日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕

### <関係諸団体会議・他>

- 7月26日(水) ～28日 聖公会保育連盟大会〔仙台〕
- 8月3日(木) ～4日(金) 比叡山宗教サミット30周年宗教代表者会議・平和の祈り〔京都〕
- 4日(金) ～6日(日) GFS 全国研修会〔北海道〕
- 4日(金) ～13日(日) ブラジル聖公会伊藤八十二大執事記念行事〔ブラジル〕

(次頁へ続く)

### ★管区事務所夏期休業

8月14日(月)～8月18日(金)の間、夏期休業いたします。よろしくお願いたします。緊急の場合は総主事までご連絡ください。

われているように感じます。私たちの心のどこかに、仕方がないというあきらめや、遠い世界の出来事だという無関心さがないでしょうか。隠してしまいたい事実や忘れ去りたい過去に目を背けずに、自分の目で見て・聴いて、加害と被害の両方の現実にしつかりと向き合うことが、平和への近道なのだと思います。自分たちの孫が、子どもたちがいのちを奪われるような現実が起こってしまったとき、どこにその怒りや憤りをぶつけたらよいのでしょうか。そんな思いをしない・させないために、後悔をしない・させないために、私たちは祈り・行動する者でありたいと願います。

【先月号の事務所日より巻頭言の中で、「北朝鮮(DPEK)」と表記してしまいましたが、(DPRK)の間違いでした。訂正いたします。】



## □常議員会

第62(定期)総会期第7回 2017年7月6日  
(木)

<主な決議事項>

1. ブラジル聖公会サン・パウロ教区伊藤八十二大執事の記念行事(8/4-14)参加に関して、上原榮正主教の訪問を承認した。
2. ベテル・フェローシップへ例年通り20万円を補助することで承認したが、期間を再考することに関して意見がなされた。
3. ハラスメント防止・対策担当者会について以下の報告を受けた。

「いっしょに歩こう!プロジェクト パートI」のボランティア活動中に起きたハラスメント行為について、管区として第三者委員会による調査を行い、常議員会の判断によって当該者(管区臨時職員)の解職を行い、被害者への心からの謝罪を行い、誤解を与える肩書きを使用しないように勧告した件について、3月のハラスメント防止・対策担当者会で報告した。

4. 各教区宣教担当者会の開催について報告を受け、12月11日~12日開催を承認した。
5. 反核・脱原発のための国際協議会開催の可能性に関して報告・相談を受けた。

(前頁より)

- 4日(金)~14日(月) IALC 国際礼拝委員会地域会議〔ベルギー〕
- 6日(日) 広島平和礼拝〔広島復活教会〕
- 9日(水) 長崎原爆記念礼拝〔長崎聖三一教会〕
- 10日(木) 日本宗教連盟幹事会〔増上寺〕
- 23日(水)~24日(木) 聖公会関係学校チャプレン会〔聖路加国際大学〕
- 24日(木)~25日(金) 聖公会関係学校協議会・研修会〔聖路加国際大学〕
- 29日(火) NCC主催・宣教会議2018第3回プレ集会実行委員会〔管区事務所〕
- 9月1日(金) 日本キリスト教連合会常任委員会・定例講演会〔管区事務所〕
- 3日(日)~6日(水) マイノリティ・ユースフォーラム〔大阪KCC会館〕
- 4日(月)~6日(水) 女性団体連絡協議会〔管区事務所〕
- 9日(土) NCC主催・宣教会議2018第3回プレ集会〔早稲田〕
- 13日(水) NCC総幹事・三役選考委員会〔早稲田〕
- 20日(水) NCC委員長会議・役員会〔早稲田〕

6. MtS 宣教研修に関して審議し、MtS 東アジア資金から70万円の補助を承認した。  
次回および次々回会議: 10月10日(火)、12月5日(火)

## □主事会議

第62(定期)総会期第6回 2017年6月29日(木)

<主な報告・協議>

1. 海外出張承認について、下記の通り承認した。
  - \* 5/16-18 スイス/ジュネーヴ WCC 総会期中間評価委員会、西原廉太司祭(渉外主査)
  - \* 5/22-27 フィリピン/マニラ アングリカンアライアンススタディーツアー、小林聡司祭(青年委員会)
  - \* 5/24-26 韓国/ファソン市 日韓教会連合

統一協会問題対策セミナー 卓志雄司祭(統一協会問題担当者)

\* 8/3 - 8/15 ベルギー/ブリュッセル市 IALC Leuven & Societas Liturgica 市原信太郎司祭(礼拝委員)

2. 「平和宣教教育活動資金」申請について

平安女学院中高より長崎平和研修に関する申請があり、承認した。

3. ベテル・フェローシップへの補助について

例年同様20万円の補助を承認した。

4. 各教区宣教担当者会の開催について

2017年12月11日～12日に開催する旨を承認した。

次回および次々回会議:9月12日(火)、11月16日(木)

## □各教区

### 東北

- ・第99(臨時)教区会 2017年8月19日(土)11時～17時 東北教区主教座聖堂(仙台基督教会礼拝堂) 議題:東北教区主教選挙

### 神戸

- ・広島平和礼拝2017 『ともに学び、行動し、祈ろう。そして一歩前へ。』8月5日(土)・6日(日) 内容:碑巡り、平和行進、原爆死没者慰霊行事、平和記念礼拝、広島原爆逝去者記念聖餐式、ほか。問い合わせ:広島平和礼拝実行委員会事務局 実行委員長 司祭

## 公 示

救主降生2017年7月14日  
日本聖公会首座主教  
主教 ナタナエル植松 誠 ㊟

神のお許しがあれば、  
主教被選者 オーガスチン小林尚明師の主教按手式および日本聖公会神戸教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。

主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代祷を求めます。

## 記

日時:2017年9月23日(土) 午前10時30分  
場所:日本聖公会神戸教区主教座聖堂(神戸聖ミカエル教会)  
神戸市中央区下山手5-11-1

※ 祭色は白を用います。

以上

長田吉史〔広島復活教会〕082-227-1553

### 九州

- ・被爆72年 長崎原爆記念礼拝(聖餐式)  
テーマ:「死の同心円から平和の同心円へ」  
8月8日(火) 宗教者平和の祈り  
8月9日(水) 10時半 記念礼拝(聖餐式・長崎聖三一教会)、会食(愛餐会)、証言、平和プログラム、ほか。問い合わせ:司祭 柴本孝夫〔長崎聖三一教会〕095-823-0455

## 《人事》

### 北海道

執事 クリストファー永谷 亮 2017年7月15日 公会の司祭に按手される。

### 東北

主教 ヨハネ加藤博道 2017年7月1日付 東北教区主教退任により主教座聖堂付とする。願いによって、2017年7月1日から8月31日までの休養を許可する。

## 東京

司祭 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸	2017年6月29日付	東京教区主教秘書を命じる
司祭 アンデレ香山洋人	2017年7月7日付	願いにより退職を許可する 東京聖テモテ教会牧師、神愛教会牧師、神田キリスト教会管理牧師の任を解く
司祭 セラピム高橋 顕	2017年7月8日付	東京聖テモテ教会管理牧師を任命する
司祭 ペテロ井口 諭	2017年7月8日付	池袋聖公会管理牧師の任を解く
	2017年7月8日付	神田キリスト教会管理牧師を任命する
司祭 ステパノ卓 志雄	2017年7月8日付	池袋聖公会管理牧師を任命する
主教 アンデレ大畑喜道	2017年7月8日付	神愛教会管理牧師を任命する
執事 ヨセフ太田信三	2017年7月17日	公会の司祭に按手される
司祭 ヨセフ太田信三	2017年7月17日付	聖アンデレ教会牧師補の任を解く
	2017年7月17日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会牧師補の任を解く
	2017年7月18日付	聖アンデレ教会副牧師を任命する
	2017年7月18日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会副牧師を任命する

## 京都

聖職候補生 アンデレ江渡由直	2017年7月1日	公会の執事に按手される。
執事 アンデレ江渡由直	2017年7月1日付	桑名エピファニー教会および四日市聖アンデレ教会牧師補に任命する。
司祭 マタイ古本靖久	2017年7月1日付	下鴨基督教会管理の委嘱を解く。
執事 アントニオ出口 崇	2017年7月1日	公会の司祭に按手される。
司祭 アントニオ出口 崇	2017年7月1日付	下鴨基督教会牧師補の任を解く。 下鴨基督教会牧師に任命する。
執事 モーセ石垣 進	2017年7月1日	公会の司祭に按手される。
司祭 モーセ石垣 進	2017年7月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、岸和田復活教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
主教 ステパノ高地 敬	2017年7月1日付	金沢聖ヨハネ教会管理の委嘱を解く。
執事 プリスカ中尾貢三子	2017年7月1日	公会の司祭に按手される。
司祭 プリスカ中尾貢三子	2017年7月1日付	金沢聖ヨハネ教会牧師補の任を解く。 金沢聖ヨハネ教会牧師に任命する。
司祭 バルナバ小林 聡	2017年7月1日付	金沢聖ヨハネ教会協働司祭の任を解く。

## 《教会・施設》

「佐賀聖ルカ教会」伝道所(九州)

新設固定電話:0952-37-1890

**特集・日本聖公会 「2017 沖縄週間 / 沖縄の旅」****いまだに終わっていない戦争の苦しみ**

—2017年「沖縄週間 / 沖縄の旅」の報告—

2017年6月23日(金)から26日(月)の間、2017年の「沖縄週間 / 沖縄の旅」が開催されました。今年は管区人権セミナーとの共催で、各教区から45名の方々が参加され、沖縄教区の皆さんと共に、「命どう宝 ～いのちの話をしよう～」というテーマ、『人の口は、心からあふれ出ることを語るのである(ルカによる福音書6:45b)』という聖句のもとでプログラムを過ごしました。

6月23日(金)、私たちは那覇空港で集まり、まず沖縄県平和祈念資料館、平和の礎で学ぶ時間を持ちました。那覇空港からのバスでの移動時間、また平和の礎などで、上原榮正沖縄教区主教様より平和ガイドをしていただきました。その後、今年3月に改築し、聖別された三原聖ペテロ聖パウロ教会に移動し、「ザ・思いやり」という映画を見ました。

これは、日本が負担する在日米軍の駐留経費、通称「思いやり予算」に疑問を呈した映画で、これを制作し、監督もしているリラン・バクレーさんはアメリカ人です。バクレーさんご自身も米軍厚木基地の飛行ルートの下にお住まいで、夜中に飛来する軍用機の爆音で子どもが飛び起きて、泣き出してしまうというような経験をしてきたそうです。しかしどうして今、日本の経済が困難な中で、米兵の娯楽費まで日本の税金から出しているのでしょうか。なぜこんなに米軍を思いやらないといけないのでしょうか? また米兵や彼らの家族の住宅や学校、そして娯楽のためのゴルフ場、ファストフード店などにどうして日本の税金が支出されないといけないのでしょうか。さらには、どうして米兵が犯した犯罪の賠償金も私たち日本人の税金から払わないといけないので

**正義と平和委員会 沖縄プロジェクト  
担当 司祭 ヨシユア 長田吉史**

しょうか。本当に変な話です。

6月24日(土)、この日はフィールドトリップとして、まず沖縄戦時の激戦地であった嘉数高台に行き、ぎのわんセミナーハウススタッフの又吉さんと赤嶺さんにガイドをしていただきながら、沖縄戦についてをはじめとした、学びの時間を持ちました。その後、嘉手納基地の見える「道の駅かでな」に向かって嘉手納基地の広さを感じつつ歩き、安保の見える丘や道の駅の展示から学ぶ時間を持ちました。

6月25日(日)、前日の夕方より、参加者は分かれて沖縄教区内のそれぞれの教会で分宿をさせていただき、聖霊降臨後第3主日の聖餐の恵みに与り、それぞれの教会の皆さんとの一時の交わりを過ごしました。その後、沖縄教区「慰霊の日」礼拝に参与しました。会場となった北谷諸魂教会の礼拝堂西側の窓からは、のどかな海が広がっていました。しかし今から72年前のそこは、多くの艦船がその海にいっぱいになっており、沖縄の人々は行き場を失っていた…。そのことを思い巡らしながら、私たちは自分自身の内に小さな平和を生み出すことから平和を願って共に祈りました。

今年のこの「沖縄週間 / 沖縄の旅」においても、未だに終わっていない戦争によって、ずっと苦しみの中におられる沖縄の皆さんに出会い、そしてその状況を聞きました。そこには、このたび初めて参加された方が「自分の眼で見、自分の耳で聞いてみて、これまでの認識を変えざるを得なくなった」と言っておられたのですが、その

ように、「世間がこう言っているから」とか、「自分の周りがこう言っているから」とか、そういうことのみで沖縄の実情を自分勝手に判断してはならないことを学びました。

フィールドトリップの様子



今回で、この「沖縄週間／沖縄の旅」は23回目を数えました。でも、この企画がいつまでも続かないことが望ましい、との声を聞きましたが、本当にその通りです。この企画を続けていくよりも、「キリストの平和」が広がっていることを私たちは待ち望んでいるのです。だからこそ、そのためには私たち一人ひとりの口を通して、心から主の栄光を現していく、その思いを今回の「沖縄週間／沖縄の旅」で共有する時間を持ったのではないかと振り返っています。

## ■ 2017年沖縄週間／沖縄の旅

### 分かち合った沖縄の思い

沖繩教区 司祭 <sup>ジョンス</sup>イザヤ金 汀洙

「人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。」（ルカによる福音書第6章45節b）

今年も6月23日の慰霊の日を迎え第23回目の沖縄週間・沖縄の旅が行なわれました。沖縄週間・沖縄の旅は「日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、わたしたち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とする」もので

す。特に今年は日本聖公会・正義と平和委員会と人権問題担当者とが共同開催することによって、沖縄に住む人々の思いをより多くの方々と広く分かち合えたと思います。

今年の旅は6月23日に始まり、ちょうど梅雨が明け沖縄らしい強い日差しの中で那覇空港から平和祈念公園へ向かいました。目の至る限りに広がる平和の礎、そこに書き込まれた20万人あまりの人々の名前は、尊い命が軽んじられてしまう戦争の素顔を表しているように見えました。

毎年訪ねているのですが、今年は同じ苗字が幾列にも続くことに気が付きました。息子の学校で行なわれた平和学習の中、絵本「つるちゃん」のモデルとなった金城ツル子さんによる証言を思い出しました。「南へ南へと避難を続ける中で愛する家族が次々と死んでいった、残酷だった沖縄戦の末に残されたのは、たった8歳のつるちゃんひとり…」

その日の夕方には今年の3月に聖別された三原聖ペテロ聖パウロ教会にて上映会が行なわれました。“ザ・思いやり”というドキュメンタリー映画は沖縄にアメリカ軍基地を置くために日本政府がどれほどの費用(税金)を払っているかについての映画でした。基地内の住宅や学校はもちろんショーピングセンターなど、ほとんどのものがこの思いやりの予算から支払われていたことが分かりました。

翌日のフィールドトリップでは炎天下の中で嘉手納基地周辺の一部(約5.2キロ)を行進しました。いつもとは違った静かな嘉手納飛行場に平和行進をする人々の反対の声だけが響きました。それはまるで沖縄の声に耳を貸すことなく黙秘している今の政府の振る舞いのような感じでした。多くの人々が、日本政府とアメリカ政府に沖縄の平和な暮らしを求める声を張り上げているのに納得できる答えはせず、またも新しい基地を押し付けている沖縄の現状とオーバラップされたのです。

三日目には沖縄教区主催の慰霊の日礼拝が捧げられました。礼拝の中ではその年に新しく刻銘された人々のお名前が読み上げられていま

すが、今年は54名でその内訳は県内31人、県外8人、韓国出身者15名でした。



戦争の素顔を書き込む平和の礎

最終日の月曜日、全体会が行なわれ、この4日間を通して感じたことを分かち合って沖縄の旅は幕を下ろしました。

最後に沖縄週間の教区責任者である高良孝太郎司祭のお言葉をここに書き残したいと思います。“もうこれ以上沖縄週間・沖縄の旅に皆さんが来なくていい、この旅をしなくていい沖縄にあってほしい”

その日が来るまでキリストに連なるすべての兄弟姉妹の皆様とともに祈って歩んでいきたいと願います。全国各地から沖縄に足を運んでくださった45名の方々、また沖縄教区内からの30名あまりの参加者の皆さまに、この紙面を借りて感謝申し上げます。

### ■ 「沖縄の旅に参加して」

#### プログラムの中で 実感したこと

東北教区 執事 パウロ 渡部 拓

このたびは初めてこの祈りの旅に参加しました。とはいえ沖縄と私は、本当に幼い頃に数年間住んでいたということもあり、多少の縁を感じ

ながらこの旅に臨みました。ちょうど梅雨も明けた沖縄にあって、飛行機から少し見えた美しい海や高い空は、ほとんど記憶がない私であってもどこか懐かしく感じ、私を楽しい気持ちにさせてくれました。しかしその気持ちは長続きせず、私は沖縄という地が抱える様々な理不尽と悲しみに打ちのめされることになりました。

私もこれまでの教育で学んだ教科書の中の知識や、テレビに映る情報として沖縄が経験した戦争や、基地問題といったことは知っているつもりでいました。しかしその認識がいかに甘いものであるのかを、プログラムが始まってすぐに私はいやというほど思い知りました。

沖縄県平和記念資料館にあった第二次大戦の地上戦での生々しい記録の数々と証言。それは写真ならば直視に耐えないもの。証言ならば、読み進めていくうちにこちらの心が悲鳴を上げるものでありました。

基地問題に関しても、案内の方に普天間基地や嘉手納基地を案内してもらいながら、基地が隣にある生活というものが、どれだけ異常なことであるかリアルティをもって聞くことが出来ました。それは住宅地の中を、轟音を上げて飛び交うヘリコプターや戦闘機。狭い沖縄の土地に対してとてつもなく巨大な基地の数々。そして沖縄の人々のためでなく、その基地のために無限に使われていく税金。レイプや暴力など、その地域のコミュニティを破壊しかねない暴力性の発露。これらのそこに住む人々の人権を無視したかのような理不尽の数々です。

戦争のことも、基地のことも、実際にその土地の空気、熱さ、人間の営みの匂い、これらのことを一緒に体験しなければ、私は恐らくまだ2次元の情報だけで知ったつもりでいたでしょう。そしてその結果として沖縄のことも遠くで起こっている、自分とは関わりの無いことで済ませてしまったことでしょう。

これはきっと東日本大震災や他のあらゆる悲劇と同じ構造のように思います。誰でも2次元だけの情報では、本当の部分など分からない。だからこそ沖縄の地に、被災地に、それぞれがそ

の身体を「時間」という自分の人生を費やして感じ取らなければ、分からないのではないのでしょうか。

沖縄のことも、震災のことも、全てが道半ばであり、どう歩んでいけばいいのか、私たちは迷

い続けている最中であると思います。しかしながら、一人でも多くの人々がこれらのことについて「人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。」(ルカ6章45b節) ようになってればと祈ります。(「沖縄週間／沖縄の旅」記事中の写真は前田良彦司祭提供)

## 日本聖公会婦人会 第25(定期)総会後

### 第1回会長会を開催

日本聖公会婦人会 会長 斉藤道子

梅雨の切れ間の中、2017年6月14日(水)～15日(木)、北関東教区にて日本聖公会婦人会第25(定期)総会後第1回会長会が開催されました。会場となりました大宮聖愛教会は、蔦の緑が映えた礼拝堂で10教区20名の皆さまをお迎え致しました。

2日間のプログラムは、「開会礼拝」本会チャプレン 木村直樹司祭の司式で始まり、日本聖公会婦人会担当主教 広田勝一北関東教区主教よりご挨拶をいただき議事に入りました。

役員会報告の後、感謝箱献金事務局(コア)運営委員会報告では、コア運営委員長任期満了に伴い次期コア運営委員長と新スタッフの紹介がなされました。退任されますコアチャプレン 三原一男 司祭、古谷美子運営委員長他3名のスタッフには、これまでのご奉仕に感謝の拍手が贈られました。



議案審議では、感謝箱献金からの支援先として以下の6つが提出され、満場一致で全て可決

されました。1.「聖地ろうあ子どもの里-HLID」2.「リグリマ・ジャパン」3.「サイディア・フラハ」4.「ニームの会」5.「国際子ども学校」6.「難民・移住労働者問題キリスト教連絡会(難キ連)」の為に、合計130万円をお献げする。

被献日献金活用申請の審議では、神学生9名、聖職候補生2名の申請があり全て承認され、グループ枠については、2グループの申請があり、静岡聖ペテロ教会からの申請が承認となりました。

今年は、どちらの献金の審議も皆さまの深いご理解のもとスムーズに進みました。これには、前役員会(京都教区)の皆さまの、第25(定期)総会での多くの見直しによるものと感謝申し上げます。こうして出来たゆとりの時間で、お土産をいただきながら、楽しい交わりとミニバザーを開く事が出来ました。



二日目「聖餐式」は、司式 木村直樹司祭、補

式 北関東教区 越智容子執事で行なわれ、信施は、「磯山聖ヨハネ教会復興プロジェクト」にお届け致しました。

〈分ち合い〉では、日聖婦の財政・役員会をどう引き継ぐかと、各教区での今についての二つのグループに分かれ忌憚ない意見交換がなされ、引き続き各教区で話し合う事が約束されました。また、この2日間の中でACWCJ委員会と国連女性の地位委員会出席のご報告と、お捧げ先「聖地ろあ子どもの里」のお話しを頂き、学びの時も持つ事が出来ました。こうして、総勢44名の二日に亘る会が閉じられました。

ご出席頂きました多くの皆さま、また準備の中でお世話頂きました方々に、深く感謝申し上げます。

これからも日聖婦の働きの大きな柱となります感謝箱献金を 広く皆さまに知って頂きお支え頂きたいとお願い申し上げます。

主に感謝



## 各教区青年担当者の集いから

### — 集いの報告と青年活動の状況 —

6月12日(月)～13日(火)、名古屋学生青年センターで2017年第2回各教区青年担当者の集い(青年委員会主催)が開催されました。この会の主たる目的は、各教区の青年活動に関する報告の分ち合いと青年関連のプログラム(日韓聖公会青年セミナー、日本聖公会全国青年大会、CCEAアジア青年大会、U26など)に関する報告や協議、そして教派を超えたエキュメニカルな青年プログラムの事も話題に挙がり、実に多種多様です。

「教会は窓」とは言われますが、青年たちが多種多様な経験をし、それらを通してキリストと出会い豊かにされていくことをサポートするのも青年委員会、青年担当者の大切な役割であると思います。サポートする側の委員や担当者自身の学びを深めるために毎回の担当者会のプログラムの柱として「学習会」を行なっています。

今回の学習会は「済州島 4・3事件について」聖公会生野センター総主事の呉光現師より

### 青年委員 司祭 ステパノ 越山哲也

お話しを伺う機会が与えられました。

2014年10月に済州島で開催された「日韓聖公会宣教協働30周年記念大会」共同声明の中にある『両聖公会は、「風の島を聖霊の島に」という、済州教会の宣教ビジョンを共有し、「生命・正義・平和」を求める共同の信仰的实践を模索する』に基づき、来年1月に青年担当者会を済州島で行なうために青年委員会では準備を進めています。その準備のために呉師より講演をお聴きすることが出来て本当に良かったと思います。私自身、正直に申しまして「済州島4・3事件」については全くの無知でした。現代史を学校で深く学ばず、また自分自身関心を持ってこなかったことに深く反省しました。そして東アジアの平和を思うときに済州島を担当者で訪れる意味は大きいと感じました。

インターネットの発達により世界中の情報を知ることが出来、また発信出来る時代です。私が出会う多くの青年たちも実にITに詳しいです。

U26の運営委員会の会議をWEB会議で実際に行かない、またLINE、Facebookなどで情報交換などもごく当たり前に行ないます。そのような時代に生きる青年たちですがやはり共に同じ場所で会って、思いを分かちあう経験を求めていると思います。むしろこんな時代だからこそ必要なのでしょう。U26が毎年全国集会を計画するという熱い思いもそのことが現れているのではないのでしょうか。

人と人が出会う時、そこにキリストが共におられることを私は信じます。青年委員会及び担当者会はこれからも「窓」になって青年たちに本物の出会いを提供していく器であり続けたいと思います。そして、私たち自身もさらに学びと出会いの輪を広げていきたいとそう願っています。



### 九州北部豪雨の被災者支援のために お祈りとお協力をお願い

主の平和がありますように 九州北部豪雨災害の被災地では、連日行方不明者の捜索や流木や土砂の撤去作業が続いています。九州教区から下記の案内をいただきましたので、ご紹介いたします。ぜひお祈りのうちにお覚えください。

+主の平和

去る7月5日に発生した「九州北部豪雨」の被害は、毎日のニュースで、予想以上に甚大かつ深刻な状況であることが伝えられています。

私たちは、東日本大震災また九州地震の二つの被災者支援室の責任者として、新たに起こった災害についても、なんとか対応したいと思い、現地の視察、またわずかに支援活動に携わりつつ、検討してきました。

しかしながら、現段階で、教区として新たに支援室を立ち上げるなどの具体的対応は非常に困難です。

そんな中、支援室員の一人と久留米聖公会が協働する形で、まずは7月24日～29日までの期間で、豪雨被災者支援の取り組みをすることとなりました。このことを、九州地震被災者支援室の活動を知らせるフェイスブックでお伝えしています。教区の支援室は、この動きをサポートしたいと思います。

フェイスブックには、若干の被災地の様子を知らせる画像もあります。ぜひご覧ください。  
※フェイスブックは下記のリンク先からご覧いただけます

<https://www.facebook.com/koritsusase-nai/>

九州教区・九州地震被災者支援室長  
九州教区・東日本大震災被災者支援室長  
司祭 柴本 孝夫  
+ 日本聖公会 長崎聖三一教会 +

## 東京教区聖アンデレ主教座聖堂オンライン受講サービスのご案内

東京教区聖アンデレ主教座聖堂では、主日の聖書の連続講座「主日の福音に聴く」、また「礼拝基礎講座」をオンラインでも受講できるようになっています。会場に足を運ぶことができない方のため、また欠席の際の補習や復習の便宜のための試みです。ご関心のある方は、ぜひこのオンライン受講にお申し込みください!

尚、当方は技術的支援、具体的には「動画が見られない」「サイトにアクセスできない」などの配信内容に関わらないご質問には対応できないことを予めご了解ください。

### 「主日の福音に聴く」オンライン受講のご案内

ギリシャ語が読めなくとも日本語で原典の意味に触れることができます。み言葉に近づき信仰生活を過ごすため、主日のみ言葉の解き明かしのため、伝道のためなど、学びたい方はどなたでも。

○内容 各講座の二週先の聖餐式主日聖書日課の解説  
資料(PDFファイル)と音声の提供です。

講師 \*雨宮慧神父

カトリック東京教区司祭、聖書学者、  
上智大学神学部神学科名誉教授  
日本聖書協会新聖書翻訳者-旧約聖書担当 著作多数

\*布川悦子氏

渋谷聖公会聖ミカエル教会信徒、聖公会神学院非常勤講師  
日本聖書協会新聖書翻訳者-新約聖書担当

日程 前期 2017年4月～9月  
後期 10月～2018年2月  
8月並びに12月下旬から来年1月上旬まで休講  
各講座終了後、数日後に受講者へメールにてオンライン受講の通知をします。

オンライン受講サービス参加費 半期 6,000円  
全期(前期・後期) 12,000円

\*申し込み方法

下記 URL のウェブページをご覧の上、お申し込みください。

<https://goo.gl/q8Jod7>

### 「礼拝基礎講座」オンライン受講のご案内

礼拝は「学び」や「研究」の対象ではなく、第一に「経験」するものです。一方で、礼拝について基本的なことを「知って」いることは、礼拝を「経験」することを大いに助けるものでもあり、またより深くそれに「参加」することができるよう、わたしたちを導きます。礼拝に参加する時の姿勢や心構えをご一緒に学びましょう。

すでに講座は終了していますが、オンラインでの受講はいつでもお申し込みいただけます。

○内容 5回連続礼拝に関する基礎講座

資料(PDFファイル)と映像の提供です。

1. 礼拝とは何か  
キリスト教礼拝の特徴 「礼拝」「 sacrament」とは
2. 礼拝に必要なもの 礼拝する人・場所  
礼拝の構成要素
3. 聖餐式 歴史と現行祈祷書の実践 宣教する教会と聖餐
4. 入信の式 歴史と現行祈祷書の実践  
キリスト者に「なる」こと 堅信前の陪餐
5. その他の諸式 現行祈祷書の諸式  
「牧会」諸式の意味  
「み言葉の礼拝」について

講師 \*市原信太郎司祭

中部教区司祭、現在東京教区へ出向中、主教座聖堂付 管区礼拝委員会・祈祷書改正委員会・エキュメニズム委員会委員

オンライン受講サービス参加費 2,500円(講座別のお申込みはできません)

\*申し込み方法

下記 URL のウェブページをご覧の上、お申し込みください。

<https://goo.gl/flkmOK>

## 世界の聖公会の動向

- ・ケープタウンの主教が原子力計画廃止を呼びかけ、ほか

### 管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

#### ○ケープタウンの主教が南アフリカ政府に原子力計画の廃止を呼びかける

南アフリカ共和国政府に対して、ケープタウンの Thabo Makgoba 主教が核エネルギー開発の動きを止め、代わりに教育、訓練などの開発目的に費やすよう呼び掛けた。Makgoba 主教は、主教会議で、教会が原子力の拡大に反対し、政府に再生可能なエネルギー開発への取り組みを追求するよう求めたとの声明を発表した。

主教は声明で、以下のとおり述べた。

「主教会議は、教会が原子力拡大へ反対する立場をとることを再確認し、政府に対して再生可能なエネルギー開発の道筋を追求するよう求めます。我々は、Jacob Zuma 大統領が、昨年的一般教書演説で、国が可能な限りの規模とペースで新しい原子力エネルギーの導入を推進すると約束したことを認識しています。しかし、私たちの国の優先事項は、市民の教育、訓練、福祉です。私たちは、手に負えない負債を負うことによって国を貧困にさらすべきではなく、次世代に核廃棄物の処分を押し付けることはできません。」

#### ○200名以上の死者が出ているスリランカの水害に対し教会が支援活動を行なう

スリランカの聖職者たちは、サイクロン・モラの上陸により深刻な洪水被害を受けた被災者に避難所を提供するために、教会や会館を提供する対応を行なっている。

セイロン聖公会コロombo教区の社会問題担当コーディネーターである Binu Jeevarajan 氏は、被災者のために教会が食事と一時的な避難所を提供しているとして、次のように語った。

「スリランカ各地で発生した水位上昇や洪水による被災者への祈りを教会に呼びかけている。私たちの教会や信徒の多くは、地域社会の住民たちと同様に被害を受けている。」

米国聖公会の国際援助機関(ERD)の Nagulan Nesiiah 氏は、次のように述べている。

「スリランカは15年以上にわたってこのように深刻な洪水を経験していない。水位が低下する速度が鈍いため、救援・復興には時間がかかるだろう。教区は、教会のネットワークを通じて最も重要な救援物資を、最も被害を受けている人々に分配している。また、浸水した教会や敷地への対応にも取り組んでいる。教区は事前に地域の災害支援チームを編成して訓練しており、これらのチームが、人道的ニーズの変化を見極めつつ、被害を受けた地域社会での長期的な取り組み計画を策定している。」

#### ○マザーズ・ユニオンがブルンディの恵まれない地域を支援

世界最貧国の一つといわれるブルンディの中でも最も不安視されている地域社会への支援をおこなうマザーズ・ユニオンの取り組みが、驚くほどの成果をあげている。「識字と経済教育プログラム(Literacy and Financial Education Program [LFEP])」は、14,000人以上の男女に読み書きだけでなく、ビジネス・スキルや、性暴力を回避し女性や少女へ教育の機会を与える自信を持つための支援を行なっている。

マザーズ・ユニオンのプログラム責任者、ニコラ・ローレンス氏は「識字教育プログラムが始まって以来、当初の目標を30%以上も上回っており、私たちが考えていたより多くの人々の生活が変わった」と語った。

「包括的なアプローチにより、過去に地域に根差したプログラムから除外された未亡人や障がい者を含め、多くの人々がこのプログラムやより広いコミュニティ内で、ただ参加するだけでなくリーダーシップを発揮することができた。」

LFEPは女性が自信を持って成長するための助けとなっている。ブルンディ中央にあるギテガ

(Gitega) 出身の女性、Goretti氏は、「以前は恥ずかしがり屋で人前に出て話すことなどできないと思っていた。自分の考えを代弁してくれる男性がいれば良いと考えていたのだが、このプログラムに参加して自分のために話すことができることに気づいた。私は自分のアイデアを表現するだけでなく、リーダーに選出され、他者のために発言することさえできるようになりました。」と語った。

### ○米国聖公会の教区に初の黒人女性の主教が誕生

ジェニファー・バスカヴィル・バロウズ司祭が、インディアナポリス第11代主教に任命され、米国聖公会内で史上初の黒人女性の主教となっ

た。主教は、インディアナ州中南部の約10,000人の会衆によって構成される48の教会を導くために、インディアナポリス教区の聖職者および幹部指導者によって10月に選出された。彼女は聖公会で最初の女性の主教の一人としてインディアナポリスの主教区を20年に渡って導いてきたキャサリン・ウェイニック主教から主教職を継承することとなった。

バスカヴィル・バロウズ主教は選挙の前に次のように語った。「アメリカの交差点(中央)に位置するこの教区は、恐怖や痛みや偏見に満ちた世界に、癒しと希望と愛をもたらす特別な使命があります。インディアナポリス教区は、インディアナ州中南部と世界をイエス・キリストの光で照らし希望を包み込む共同体であると私は思います」

## 立教女学院で職員を募集しています！

- ・職種 臨時職員 1名
- ・採用予定日 2018年4月1日
- ・雇用期間 2018年4月1日～2019年3月31日 ※契約更新する場合あり
- ・業務内容 学院オルガニスト：礼拝（聖公会）でのパイプオルガン奏楽
  - ・中学校、高等学校での始業礼拝での奏楽
  - ・学院行事（入学式・卒業式・記念式典等）での奏楽
  - ・生徒へのオルガン指導
  - ・パイプオルガンの管理
  - ※可能なら高校聖歌隊の合唱指導含む
- ・勤務日・時間 中学校・高等学校での始業礼拝での奏楽：週2日 7：30～12：00  
生徒へのオルガン指導：毎月土曜日の2日ないし3日の午前または午後  
他学校行事（入学式・卒業式・クリスマス等での奏楽）を実施する別日での就業あり
- ・給与・待遇 時給制 賞与なし・退職金なし・通勤費実費支給
- ・社会保険 労災保険のみ加入
- ・応募資格
  - 1.日本オルガニスト協会正会員
  - 2.聖公会の音楽についての知識・理解がある
  - 3.合唱指導経験あれば、なお可
- ・応募期間 2017年8月1日（火）より ※随時選考を行なう予定です
- ・選考日 随時（応相談） 面接・実技試験あり  
※書類審査の上、詳細は連絡致します。
- ・提出書類
  - 1.履歴書（写真貼付、A4版に限る）
  - 2.卒業（見込）証明書、修了（見込）証明書
  - 3.成績証明書（学部および大学院）
  - 4.志望理由書（800字～1000字、A4版に限る）
  - 5.推薦書  
（応募者のことをよく知る者／恩師・上司・牧師等の推薦書、A4版に限る）
- ・提出先 〒168-8616  
杉並区久我山4-29-60  
学校法人立教女学院 人事課  
※郵送のみ受付 ※封筒表に「学院オルガニスト応募書類」と朱記
- ・連絡先 法人事務部人事課 TEL：03-3334-5470

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yaraï-cho, Shinjuku-ku.  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

2017年8月15日

主にある兄弟姉妹の皆さまへ

日本聖公会首座主教 主教 ナタナエル 植松 誠  
正義と平和委員会 委員長 主教 ダビデ 上原 榮正

## 8・15 平和メッセージ

み心が行われますように。み国が来ますように。(主の祈りから)

主の平和が皆さまと共にありますようにお祈りします。

2017年8月15日、日本は72回目の「戦後」を迎えます。わたしたちはこの日、過去の過ちを悔い改め、日本の侵略によって傷つき、痛みと悲しみを抱いているアジアをはじめ近隣諸国の人々との和解と癒しを祈り、同じ過ちを繰り返さないようにと祈ります。そして、また今も戦争によって傷つき苦しんでいる人々を覚え、犠牲となった多くの魂の平安を祈り続けていかなければなりません。

しかし今日本は、戦争の記憶の風化と共に、再び自国防衛の名のもとに、戦争への備えが着々と進んでいます。この数年の間に国会では、安全保障関連法、特定秘密保護法、防衛装備移転3原則などが制定され、実質的には戦争ができる国となりました。そして今国会では、「国家治安維持法」を彷彿させるような「共謀罪」が名称を変えた、「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法案が、強行採決されました。また秋の臨時国会では、国の根幹に関わる平和憲法第9条の改憲も論じられようとしています。この先にあるのは、自国の安全と国民の生命、財産を守るためといいながら、それらも脅されかねない戦争です。戦争になれば、自国の生命、財産を守るために、人を殺し、人が殺されます。また、殺させられます。戦争が起きれば、多くの犠牲と大きな被害が生じます。そして、問題の解決よりも、憎しみと報復の連鎖が無限に続くこととなります。

わたしたちクリスチャンは、イエスさまの教えられた「主の祈り」を唱えます。祈りの中で、「み心が行われますように、み国が来ますように」と祈ります。神さまのみ心は何でしょうか、神さまのみ国とは、どのようなところでしょうか。互いに愛し合い、赦し合い、信頼し合い、争うことなく、喜びと感謝を持って、自由に平和に生きる世界ではないでしょうか。

終戦（敗戦）から72年目を迎えた今日、「二度と戦争を起こしてはいけない」という戦争経験者たちの声を深く心に刻み、「み心が行われますように、み国が来ますように」の祈りの中で、私たち日本聖公会の聖職・信徒が、日本で、また世界で、「平和の器」として、平和の実現のために身も心も捧げて働く者となれるように祈ります。

平和の主のお導きと祝福が皆様の上にありますように。

主にあつて

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会  
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yurai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

2017年7月13日

内閣総理大臣 安倍晋三殿

法務大臣 金田勝利殿

### 死刑執行に憤りをもって強く抗議します

2017年7月13日、大阪拘置所で西川正勝さん、広島拘置所で住田紘一さんの命が死刑の執行によって奪われました。西川さんは再審請求中で、極めて異例の執行です。

第2次安倍内閣発足以降で死刑が執行されたのは、去年11月以来11回目で、合わせて19人のぼります。極めて早い頻度で執行を重ねる現政権が、いかにいのちを軽視しているかの現れです。

世界で事実上死刑を廃止している国は145か国に上り、OECDに加盟している国の中で死刑制度を存置しているのは日本と米国だけです。その米国でも死刑の判決・執行数は激減し、死刑制度を廃止する州が毎年増加しています。我が国では、死刑制度に関する議論が極めて少なく、日本政府の死刑制度に対する姿勢は、明らかに廃止へと向かう国際社会の潮流に逆行していると言えます。また、政府は死刑制度存置の理由に犯罪抑止力をあげますが、死刑制度が抑止力にはならないことは統計上明白です。むしろ、死刑制度があることによって犯罪が凶悪化することもあるとされています。

わたしたちは現在、死刑の判決後キリスト教の信仰を受け入れ、受洗した死刑囚と共に信仰生活を送っています。また、これまでに、自分の犯した罪に真摯に向き合い「生きて罪を償いたい」と贖罪の日々を送っていた同信の友を死刑の執行によって奪われました。わたしたちの死刑制度廃止を求める願いには切なるものがあります。

わたしたちは、神より与えられたすべての人の生命と尊厳、そして人権を守るキリスト者の信仰に立って、一日も早い死刑制度廃止を強く求めます。

金田法務大臣には、是非とも多くの死刑制度廃止を訴えるわたしたち国民の声に耳を傾けると共に、国連総会決議による死刑制度廃止勧告を受け入れ、内閣及び国会の場において、死刑制度廃止に向け努力されるように、また、その法改正がなされるまで、これ以上死刑を執行しないように強く要請いたします。

日本聖公会正義と平和委員会  
委員長 主教 ダビデ 上原榮正  
〒162-0805 東京都新宿区矢来町 65

青年活動のための日  
2017/08/06



*from CCEA Youth Forum 2016 in Malaysia*

平和を実現する人々は、幸いである、  
その人たちは神の子と呼ばれる。  
(マタイによる福音書 5：9)

日本聖公会

日本聖公会管区事務所ホームページ：<http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。